

設立 平成24年 5月15日  
開塾 平成24年 9月 8日  
発行 令和 6年 7月13日  
(134号)

[事務局] 〒567-0861  
茨木市東奈良2-7-10  
人間学塾・中之島  
事務局 古田修平  
編集長 西村俊幸

# 中之島ニュース

成功法則では十年後自分の成功法則にはまつていきました。それらの成功法則では十年後自分の自分をイメージ、五年後三年後と逆算して目標達成していきます。ところが、当時病気の私にはその十年後がないのです。しかし、先人は教えてくれます。重要なのは、これから先ではなく、今の状況が幸せを決めている、ということ。歴史とはとかく過去の出来事の評価をしがちですが、本を出すために歴史上の過去の出来事や先人たちと向き合っていく中で、その出来事や結果の良い悪いではないと気づきました。そこに至るまでにはそれぞれがいろんな悩みやプレッシャーと戦いながら、良い日本を目指し生きた、先人のその思いを汲むと、もうどんな出来事にも感謝しかない。それに気づくことができると未来に希望しか湧かなくなるのです。何が人間の幸せを決めるか、それは今の状況がどうあれ、未来に希望の持つることではないか。

二〇一〇年に大きな病気を経験し、そこから私の人生は一八〇度変わりました。幼い頃は日本に誇りを持てずにいいたのですが、多くの外国の方から日本の素晴らしさを聽かされたことや、境野勝悟先生との出会いから学ばせていたいたいこともあり、あるきっかけで出版のお申し出をいただきました。そこで当時私は助かる見込みのない病を抱えてはいましたが、病床で来る日も来る日も先人たちの人生と向き合い、日本の歴史を紐解いていきました。そうする中で、素晴らしい発見が次々とありました。



「古事記が教えてくれる天命追求型の生き方」

白駒妃登美先生

卷之二

卷之二

## ■日本人は天命追求型

■日本人は天命追求型

それぞれの国、民族には先人たちの培つた歴史や文化があるのと同じように生き方もあると思います。日本人というのは過去も未来も手放して、今ここに全力投球してきた、自分の環境を受け入れ感謝してご縁をいただいた人たちを笑顔にするために頑張る中で、次のステージへと運ばれてまた新たな現実を得、またそれを受け入れ感謝して：と更なるステージへと運ばれる。そのようにして日本人は天命によつて運ばれるという生き方をしてきたのだと思うのです。日本人には日本人の生き方があり、他の民族の生き方を猿真似したところで幸せにはなれない。というのは、私は若い頃より決めた目標は絶対達成しないと氣の渣まない性格でいつでも充実感はあつた。そしてそれを幸せ感と勘違いしていました。組で頑張つていましめたが、その方向性は自らのためでした。それが、その方向性を他人に向けたとき、体調はもとより、現実が夢を超越する素晴らしい体験を得ました。

神話からも日本人の生き方に気づかされます。例えば『古事記』のヤマタノオロチ伝説も、西洋なら英雄になることや何らかの見返りがあれば、ヤマタノオロチ退治を頑張ることができるでしよう。しかし須佐之男命は娘を奪われると泣いている老夫婦を助けたい一心でヤマタノオロチを退治しました。その結果、英雄の剣を手に入れることができた。予測はしてなかつたはずですが、与えられた環境で目の前の人を笑顔にするために頑張ることで扉が開く：まさしく天命追求型の生き方です。

た星稜高校野球部を私も心から応援していました。現在大学生の私の息子も中学から高校に入りました。ところがまわりは特待生ばかりですから、いつまでたっても一般入試で入った息子にはまったくチャンスはない、本人は不貞腐れてしまつた。私は心を鬼にして、社会に出たら理不尽なことだらけなのだから一足早く体験できてよかったです。星稜高校を名門に育てたのは本田先生と山下監督です。その山下監督の息子さんが当時野球部長をされており、息子と会つてこんな話をしてくださいました。

「その子は高校までは名の知れた選手だった。大学でも野球をやりたいと強豪の駒沢大に入り、初日で愕然とした。自分が一番下手だったから。そして彼はその練習初日に『日本一の球拾いになる』と決意したんだ。彼は四年間バッターボックスに立てなかつたけど、一度も練習を欠かさなかつた。文字通り日本一の球拾いになつて、野球をややながら教員になり、野球の指導を始めだ。その子は四年間も下積みをしたからその経験を活かし、素晴らしいチームを作り上げた。そのチームはいつしか甲子園の名門と呼ばれるようになつた。その子がうちの親父なんだよ。君は今チームのために一生懸命頑張つていて、その頑張りはもしかしたら二年半では花開かないかもしれない。でも君の頑張りは人生の中では必ず花開くのだから、自分がチームのためにできることを精一杯やりなさい」。

その日から息子の野球に対する取り組みも学校生活も大きく変わりました。彼は自分の人生のテーマは誰かを支えることだと気づいた。大切なことを本田先生のご縁で星稜高校野球部に教えていただき

(抄録  
中川千都子)



総合司会 町田豊彦塾生  
いつも撮影協力ありがとうございます！



白駒妃登美先生は懇親会にもご参加頂きました！  
濱田久美様、フルート演奏ありがとうございました。

## （天命追求型の生き方）

## ◆Aグループ

- ・ちよにやちよに 愛の歌だつたと知つた
- ・稻のことを「瑞穂」ということ
- ・十年後はないと考える

## ◆Bグループ

- ・幸せとは未来に希望を持つこと
- ・君が代は愛の歌が元 君とは皆のこと
- ・英雄の条件 持ちかえつて次世代につなぐ

## ◆Cグループ

- ・受け入れることから人生を始める
- ・大切な人を笑顔にする
- ・三種の神器の意味

## ◆Dグループ

- ・ご縁に感謝してつながる
- ・残りの時間が命

## ◆Eグループ

- ・「君が代」は愛する人のための歌
- ・天命追求型の生き方
- ・和の心を大和心へ

## ◆Fグループ

- ・日本人は私とあなたと自然を区別しない
- ・未来を信じ、次世代に繋げていくこと
- ・一人ひとりが和の心を磨き「大和心」へ



第13期入塾説明会が開催されました。DVD映像から、中川千都子代表の挨拶、松本学副代表より塾の概要説明が行われました。当塾の特色とともに、学びの継続性を強調されました。

その後、藤井優和塾生、岡本ユウコ塾生、磯部泰司塾生より、それぞれの体験発表がありました。

よき人とよき学びとよき場、人としてどう生きていいくのか、本当の勉強とは、縁を育てていく思い、などなど。すばらしい感想などが多數発表されました。

当日発表された皆様、本当にありがとうございました。これからも一緒に学びましよう。

## 第13期 入塾説明会 開催

第13期入塾説明会が開催されました。

DVD映像から、中川千都子代表の挨拶、松本学副

令和6年9月より、人間学塾・中之島はいよいよ第13期を迎えます。

講師等の詳細については、別途、パンフ

レットをご覧いただきますようよろしくお願

いします。

塾生の方は、継続の手続きをお願いします。

登録塾生の方は、是非、塾生に。皆様 友人・知人をご紹介下さい。



人間学塾・中之島  
第13期ご案内

## 第13期 スケジュール&amp;登壇講師

9月14日	(土)	入塾式	先生	先生	先生	先生	先生	先生
10月19日	(土)	石川 真理子	先生	先生	先生	先生	先生	先生
11月 9日	(土)	今野 華都子	先生	先生	先生	先生	先生	先生
12月21日	(土)	上甲 晃一	先生	先生	先生	先生	先生	先生
1月11日	(土)	木南 一志	先生	先生	先生	先生	先生	先生
2月 8日	(土)	横田 南嶺	先生	先生	先生	先生	先生	先生
3月15日	(土)	執行舟 幸一郎	先生	先生	先生	先生	先生	先生
4月12日	(土)	鍵山 の地	先生	先生	先生	先生	先生	先生
4月13日	(日)	先哲 姫登美	先生	先生	先生	先生	先生	先生
5月10日	(土)	白駒 一郎	先生	先生	先生	先生	先生	先生
6月14日	(土)	岩崎 三吉	先生	先生	先生	先生	先生	先生
7月12日	(土)	野本 卒塾式	先生	先生	先生	先生	先生	先生
8月 9日	(土)							

寺田一清先生に導かれて 近藤宏枝 (19)

「人間学塾・中之島」にとつて、大切な講師の人で在られる鍵山秀三郎先生には三度ご登壇いたしました。先生のご講話は、いつも公共心・公徳心を語つて下さつていきました。

ご自身の人生は、些細な事を積み重ねてきて良かった人生だと言われました。現代はさほど努力をしなくとも物が手に入つてしまふので、些細な小さな事に感謝・感動する場面が、昔の人に比べると少なくなりました。人並みの生活が出来る事を、幸せとは感じないのです。「一切の不幸せは不足から生ずるのではない。有り余るところから生ずる」という言葉がありますが、豊かなままで幸せになれる方法は謙虚な心を持つことで、そのためには掃除が最良の実践だと説かれました。

また如何なる国や時代にあっても、人が生きるうえでの「目に見えない大切なもの」を教えて下さつた事もありました。米国アナポリス海軍兵学校で、現在も日々の修養に使われているのは、終戦により閉校されたわが国の海軍兵学校で学ばれていた「五（ご）二省（せい）」と呼ばれた自戒の言葉です。敗戦後来日した米国海軍中将が、この言葉に感銘し、自国に持ち帰り翻訳させたのでした。

一、至誠に悔（うら）みなかりしか（真心に反していなかつたか）

一、言行に恥（わ）るなかりしか（言行に不一致な点はなかつたか）

一、気力に缺（か）くるなかりしか（精神力は十分であつたか）

一、努力に憾（うら）みなかりしか（十分に努力をしたか）

一、不精に亘（わた）るなかりしか（最後まで手を抜かなかつたか）

自分で得た成績は自分のものにせず、後世の人私より公を選ぶ日本民族の血を、今こそ取り戻さなければならないと深く思うのです。

中之島ニユースご恵送誠に有難うござります。市川英俊先生の文の中では「そのやなほんまや、そのとおり」は寺田一清先生の声で聽こえて参ります。皆様そうでしょうね。内觀法は僕も毎日日記に書いています。お世話になつたこと、してあげたこと、迷惑をかけたこと。そのうちしてあげたことの少ないこと、それが反省点になつております。登録塾生、本年も申し込ませていただけです。よろしくお願ひいたします。

芳信抄

第133号 中之島ニュース賜り、ありがとうございます。登録塾生の継続申し込みさせさせていただきました。第13期も宜しくお願ひ申し上げます。

「そやな」「ほんまや」「そのとおり」寺田一清先生のお言葉も真理と存じます。一つ一つ丁寧に多層的に実践することでおい人生になると思います。

愛知県 坂部智一様

○○  
場日 時  
所時 8月10日(土) 13時  
大坂大学・中之島セミナー室  
6階  
セミナー室 E・F

## ひとり1分 感想 発表

編集後記

白駒妃登美先生。天命追求型の生き方  
『君が代』の「君」は愛する人をさす歌。  
それが国歌として歌われている国・日本。  
素敵です。天命追求型の生き方により、  
和の心が大和心となっていくのです。  
本当に感激でした。白駒妃登美先生には、  
今期より常任講師にご就任していただきました。  
当日は、懇親会までお残り頂き、  
本当にありがとうございました。

第12期も残りわずかです。  
第13期もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

編集長 西村俊幸

6月某日、執行草舟先生に面会、歓談の中、當塾・塾生に対しお褒めの言葉をいただきました。

人間学塾では、「会場に入つたときの雰囲気がすでに違う。その良さは他所の団体とは比較にならない。皆が熱心。これはお世辞ではない」とのこと。さらには「今後日本は厳しい時代を迎えるだろうが、そのときに救いとなるのがこの塾で学ぶ人たちだよ」とのお言葉でした。

その後ぜひ常任講師に就任いただきました。申し出たところ、二つ返事でご快諾いただきました。来期もお楽しみに！

## 番外レポート